

Eureka X

六年制通信 No.15 令和4年7月20日(水)号

夢の話

いわゆる文人と言われる方々、文芸の世界で学問を修めた偉い先生方ですが、そういう先生が*簀を易えられると白玉楼(はくぎょくろう)というところに住まわれると、古来そう伝えられています。ですから追悼文などでは敬意をもって「〇〇先生が白玉楼中の人となられた」などと書いてあるのをよく目にします。私の恩師も必ずそこにいらっしゃいます。それはいいのですが、最近ふと気がついたと言いますか、夢に見たと言いますか、どうして今まで気づかなかったのか不思議なのですが、私が死んだらひょっとしてご挨拶に行かなくてはいけないのではないかと、当然そうしなくてはいけないのではないかと、必ずそうしなくてはいけないのではないかと。しかし、先生、お久しぶりでございますと、ご挨拶だけで済めばいいのですが、そんなわけはないのです。想像するのも怖いのですが、きっと口頭試問があるに違いないのです。どんな勉強してきたのかと。いつも言っているように、学歴とは18や19で入った大学のことを言うのではなく、生涯にわたって何をどのくらいの熱量で勉強してきたか、勉強し続けたか、それが文字通りの学歴だと。ですから、恩師には(絶対に嘘は言えませんから)私の学歴を正直に申し上げることになるわけです。怖い。本当に怖い。めちゃくちゃ怖い。絶対に今のままでは叱られる。案の定、白玉楼の庭先か玄関先かわかりませんが、そこに私が正座して先生から叱られている夢を見ました。あんな怖い夢ないわ。

というわけで、夢のせいで、この夏休みは諸君以上に勉強しなくてはならなくなったのですが、ここでまた君たちに「除日起講」(これ、聞いたことのない学年は1年生だけですか。担任の先生に教えてもらってくださいね)について話をしたことを思い出してしまったのです。ということは、夏休みを待ってはいけないわけです。よね？

で、只今、私、勉強時間を増やして頑張っています。君たちも頑張りましょうね。

註) *簀を易える:「さくをかえる」と読みます。 易簀は「えきさく」、意味は辞書を引いてごらん。

もう一つ怖い夢を見ました。森に迷い込んだ王子が、小さな湖を優雅に泳ぐ白鳥に出会う。しばらく眺めていると岸に上がった白鳥が美女に変身する。おおっ。もちろん王子は一目惚れをする。この手の話は世界中にありますね。ギリシア神話でもレダに恋をしたゼウスは白鳥に化けて近づくわけです。美しい白鳥には男も女も油断するということでしょうか。私の夢は、森に迷い込んだ私が、澄み切った小川で水遊びをしているチンパンジーに出会う。しばらく眺めていると、そのチンパンがウッキーと叫びながらバク転をし、美女に変身する。で、何でチンパンやねん、もう一回バク転したらチンパンに戻るんやろ、一目惚れなんかできるかあ、と怒っている夢です。こわっ。

夏休みのおすすめ

・水野敬也 『夢をかなえるゾウ 0 ガネーシャと夢を食べるバク』 (文響社)

今回は、夢のを見つけ方です。夢をかなえるガネーシャが夢を持たない若者にとまどいながらも、ペットのバクちゃんと夢のを見つけ方を伝授していきます。いつもの課題形式は踏襲されています。何とガネーシャのおともも登場。シバ神という最高神ですが、この父と子には悲しい過去があり、それを清算できるかもお楽しみです。今回、作者の水野さんの冗談というかギャグがもう行くところまで行っているような、ちと悪ふざけの領域に片足突っ込んでいるような、そんな気がしました。

・知念実希人 『死神と天使の円舞曲』 (光文社)

お互いを「バカ犬」、「アホ猫」と呼び合う仲の良い(?)二人。これ、シリーズ三作目で、ファンの期待通りのストーリー展開です。『優しい死神の飼い方』、『黒猫の小夜曲』の二冊をこの順番で読んでからの方が圧倒的に楽しめますよ。

・今野 敏 『任侠楽団』 (中央公論新社)

今野さんの任侠シリーズの最新刊です。本当は『任侠書房』、『任侠学園』、『任侠病院』、『任侠浴場』、『任侠シネマ』の順で読んでほしい。これ、任侠団体が主人公なのですが、教育的なシーンがたくさん出てきます。ストーリーも面白いし。

・柴田 武 『知っているようで知らない日本語』 (PHP 文庫)

「緑の黒髪」ってホントは何色。「二の腕」とはいうけれど三の腕や四の腕はあるの。「醍醐味」はどんな味。「不束者(ふつつかももの)」は何を束ねないとそう言われるのか。「逆鱗に触れる」とはどんな鱗(うろこ)のことか。などなど、543項目もありますが、いずれも読みやすく要約されています。

・松村 緑 編 『石上露子集』 (中公文庫)

「いそのかみつゆこ」と読みます。短歌、詩を一篇。生涯たった一つの詩を書いて、名を遺した詩人です。「うばら」は「野バラ」のことです。

ゆきずりの小板橋 しらしらとひと枝のうばら いづこより流れか寄りし。

君まつと踏みし夕に いひしらず沁みて匂ひき。

今はとて思ひ痛みて 君が名も夢も捨てむと なげきつつ夕わたれば、

あゝうばら、あともとどめず、 小板橋ひとりゆらめく。

読み方: ゆきずりのこいたばし しらしらとひとえのうばら いづこよりながれかよりし

きみまつとふみしゆうべに いいしらずしみてにおいき

いまはとておもいいたみて きみがなもゆめもすてんと なげきつつゆうべわたれば

あゝうばら あともとどめず こいたばしひとりゆらめく

素敵でしょ。石上さんのこの一篇、暗唱しませんか。

・ホメロス 『オデュッセイア』松平千秋訳 (岩波文庫)

ショウペンハウエルの言う、精神の清涼剤としてのギリシアの古典、その古典の中の古典がホメロスです。トロイア戦争が終わって故郷へ帰るギリシアの英雄オデュッセイアの冒険物語。語学的にも信頼のできる松平千秋の名訳でどうぞ。

BGMは 手嶋葵 の 明日への手紙 でした…。